4．地域診断

前段で整理した「柳川市の情勢」、「関連上位計画」、「地域住民の意向調査」を踏まえて、本市の抱える課題を抽出し、自然環境・社会環境・生産環境の 3 つの分野および地域資源の利活用の課題に分けて整理する。

(1) 自然環境に関する課題

◆ 河川・掘割の水質向上

本市の特徴となっている掘割だが、以前から家庭雑排水の流入や海苔加工時における排水による水質の悪化が問題視されている。地域住民の意向調査においても多くの意見があがっており、今後も対策が必要である。

◆ 生態系の保全

矢部川水系の河川や掘割、有明海の干潟等における貴重な動植物の減少が問題となっている。一方で、外来種の動植物の繁殖への対策も必要とされている。

◆ 水辺の景観の保全・維持

掘割とともにまちが形成されているため、水辺の景観の保全・維持は、まち全体の景観を考える上でも積極的に取り組む必要がある。

(2) 社会環境に関する課題

◆ 道路の利便性向上

本市の広域交通網である国道 208 号（有明沿岸道路）、国道 443 号等については整備がすすめられているが、一方で、集落道路や農道等においては幅員狭小な区間も残されている状況である。緊急車両等の通行にも影響があることから、改良・整備に取り組む必要がある。

◆ 交通手段の利便性向上

公共交通機関については、鉄道、バスが利用可能な環境ではあるが、特にバスについては利用者の減少とともに運行本数等の削減が進み、利便性が損なわれている状況である。また、市が運行しているコミュニティバスについても、高齢化により利用したい人が増えている一方で、融通が利かないとの意見もあり、改良が求められている。

公共交通機関は市内だけでなく、市外との交流を促進する役割を担っていることからも、利便性の向上が必要である。

◆ 歩行者の安全確保

地域住民の意向調査において、歩道がない、信号機がない、ガードレールがないなどの意見がみられた。歩行者の安全確保への対策が必要である。

◆ 汚水処理施設の整備

本市では公共下水道の整備及び合併処理浄化槽の設置がすすめられている。掘割等の水環境保全のため、今後も計画的に整備をすすめていく必要がある。

◆ 空き家活用等による過疎対策

本市では、旧大和町が過疎区域とみなされており、市全体的にも人口減少や高齢化が進行している状況であることから、過疎対策に取り組む必要がある。対策の一環として「住まえるバンク」制度を設けているが、掲載物件が少数に留まっている状況である。増加する空き家問題と併せて、対策をすすめる必要がある。

◆ 観光資源・伝統行事の維持

本市には掘割を巡る川下りをはじめ、多様な観光資源を有している。また、伝統行事やイベントにより一定の観光客の入込があることからも、観光資源・伝統行事の維持に努める必要がある。

◆ 公園の管理・整備

本市にはたくさんの公園が存在するが、管理が行き届いていない、地区ごとのバランスや利用者の利便性・利用人数などを勘案した配置状況になっていないなどの問題がある。市民の参加も含めた管理体制の強化及び、利用率等を考慮した整備が必要である。

◆ 上水道の維持・管理

上水道事業の経営が独立採算制を基本原則としていることから、少子高齢化等により給水量の減少で収益の減少が見込まれている。その状況で、老朽化した施設や管路の耐震化などの設備投資が必要であり、今後の維持・管理のための対策が必要である。

◆ 公共施設等の維持管理への市民参加

本市では、掘割の水落ち時期に行われる「柳川“堀と道”クリーンアップ大作戦」のほか、各地区で積極的な清掃活動が行われている。また、農村地域では、多面的機能支払交付金の活動組織による農業施設の保全活動が行われており、今後も市民参加による公共施設等の維持管理を推進する必要がある。

◆ 伝統産業の保全

柳川まりやさげもんなど、柳川の歴史や文化を象徴する伝統産業の保全が必要である。

◆ 雇用の場の創出

本市では少子高齢化の傾向が進んでいる。若者の市外流出を防ぎ、定住化を目指す一環として、雇用の場の創出が必要である。

◆ 体験学習の場の維持・拡充

本市では、子供のための体験学習として、干潟遊び体験や生物観察などが行われている。また、グリーンツーリズムの取り組みも行われており、これらは都市と農村の交流促進の場にもなっていることから、今後も維持・拡充が必要である。

◆ 不法投棄問題の解消

地域住民の意向調査で多かったのがゴミのポイ捨てなどの不法投棄の問題であった。地域住民の対策だけでは不十分である状況のため、市も一丸となった対策が必要である。

◆ 水害対策

近年、夏の大雨による水害が市内の各地で起こり、問題となっている。近年の雨量を考慮した対策が求められている。

(3) 生産環境に関する課題

◆ 農業従事者の高齢化・担い手不足の解消

農業就業人口の減少及び高齢化が問題となっている。地域住民からも不安の声があがっており、対策を講じる必要がある。

◆ 農業基盤整備の促進

本市では、ほ場整備、用排水路整備、農道整備などが行われているが、大型機械を利用した農業に適応していない農地や道路も残されている。農地の集約化と併せて、計画的な整備の促進が求められている。

◆ 掘割等の水利施設の機能維持・確保

掘割の法面崩壊や土砂堆積など、主に排水機能の低下が問題となっている。掘割をはじめとする農業水利施設の機能維持・確保を図る整備が必要である。

◆ 農業用水・地域用水の水量の確保

水路内の泥土堆積により、水量減少がみられる。農業用水だけでなく防火用水などとしても利用されるため、水量の確保が必要である。

◆ 農業の振興

担い手不足や高齢化が進行する中､市の農業の衰退が不安視されている。農業基盤整備とともに、大規模生産者の育成、農産物のブランド化の推進などによる総合的な農業の振興促進対策が必要である。

◆ 優良農地の維持

農用地は、農業の持続的な発展を図るための、最も基礎的な農業生産基盤である。そのため、優良農地を維持していく必要がある。

◆ 耕作放棄地・遊休農地の解消

耕作放棄地面積は減少傾向にあるようだが、全く管理されていない遊休農地や耕作放棄地もあり、隣接する農地への影響が問題となっている。解消に向けて対策を講じる必要がある。

◆ グリーンツーリズムの更なる推進

本市では､「むつごろうランド」や「ふれあい農園」を中心に行われている。グリーンツーリズムは農業や農村地域を活性化させる可能性が見込まれることから、今後も更なる推進を図る必要がある。

◆ 水産業の高齢化・担い手不足の解消

農業と併せて本市の特徴である漁業においても就業者数の減少及び高齢化がみられるため、その対策が必要である。

(4) 地域資源の利活用の課題

本市には、先人の知恵と技術により築かれた総延長およそ 930㎞ にも及ぶ掘割が市全域を縦横に巡っている。その昔ながらの掘割では川下りが行われており、春には「お雛様水上パレード」、秋には白秋祭の期間に行われる「夜の水上パレード」などが開催され、観光資源としてだけでなく市民にとっても親しみのある場となっている。しかし、生活雑排水の流入などにより、水質の悪化や悪臭などが問題となっている。

今後は、昔ながらの掘割の姿も残しつつ整備を行い、人・動植物にやさしい水辺づくりを行っていくことが必要である。